

事業報告書

1 支援団体名	筑後川まると博物館運営委員会
2 事業名称	筑後川の船上から見て語る昭和 28 年大水害 60 年目の現場と写真展
3 実施日時	2013 年 7 月～2013 年 11 月
4 実施場所	福岡県久留米市内筑後川
5 事業目的、内容及びその効果	(事業実施状況・内容) *できるだけ詳細に 第 1 回広報開始 2013 年 7 月～ 第 1 回クルーズ 当日 8/4 大雨のため 11 月に延期 昭和 28 年大水害写真展第 1 回 8/1～8/15 300 人 第 2 回広報開始 9 月～ 第 2 回クルーズ 11/16 実施 40 人 第 3 回クルーズ 11/17 実施 40 人 昭和 28 年大水害写真展第 2 回 10/20～11/20 700 人
	(事業実施効果) ① 写真展はクルーズ実施日の前後にかけて乗船場近くの「くるめウス」において実施した。乗船客の他来館者が興味深く観賞していた。写真には体験者の証言が書いてあり、当時の様子が生々しく伝わっていた。また、クルーズの航路にある場面の写真もあり、乗船者には良く理解できた。 ② クルーズは、8 月が大雨のため延期し、11 月に 2 日にわたって実施したが、2 日とも乗船客はほぼ満員だった。高齢者を中心に、学生や子ども連れもあり、船内で行った大水害の解説や証言の聞き語りは、体験していない若い人にも伝えることができた。航路上の当時の写真も掲示したので、参加者は現地と比較できてわかりやすかったと好評だった。 ③ 川の上から見ると、堤防の高さと水害時の水の高さがよくわかった。
6 参加内訳	総人数 1090 名
	(1) 主催者参加 事務局、スタッフ 10 名
	(2) 日本人参加 ((1) を除く) 写真観覧者含む 1080 名
	(3) 外国人参加 ((1) を除く) 0 名
7 今後の方針	今年度は、昭和 28 年大水害から 60 周年で初めて実施したが、船上で行う水害の解説は、水位の高さ水の勢い、水量のすごさなどが実感としてわかりやすいことがわかった。いつ起きるともわからない水害への備えは常に行うべきで、人々にその心構えを伝えるこの活動は今後も継続していかなければならないと強く思われた。

状況写真

(8月 昭和28年大水害写真展)



状況写真

(11/16 久留米の歴史探検クルーズ・水害を語る)



状況写真

(11/16 久留米の歴史探検クルーズ・水害を語る)



状況写真

(10~11月 昭和28年大水害写真展)



状況写真

(11/17 久留米から河口クルーズ・水害を語る)



状況写真

(11/17 久留米から河口クルーズ・水害を語る)

